

## 京都市市民参加推進フォーラムの活動状況について

## 1 市民参加円卓会議

- (1) 開催月日 8月7日(日)
- (2) 場 所 景観・まちづくりセンター ワークショップルーム
- (3) 参加者 50名(フォーラム委員を含む。)
- (4) 開催目的

市民参加推進フォーラムにおける市民参加推進計画の点検状況を発信することにより、市民参加の機運を高める。

## (5) 主な内容

## ア グループA「市民公募委員さんに聞きました！あなたの声は届いていますか？」

公募委員に参画してもらう審議会は、従来の審議会の議論の進め方や運営方法を改めて、公募委員の参画しやすい環境を整え、審議会そのものが変わる努力をする必要がある。

公募委員も審議会に参画するに当たっては、市役所のためだけでなく、市民全体のために参画するという意識を持つ必要があり、自主的な勉強を行う等、自己研鑽を重ねる必要がある。

公募委員の意識・スキルの向上を図るためにも、公募委員を中心とした市民参加に関わる勉強会を開催してはどうか。

市民に市民参加の取組を広く知ってもらい、関心を持ってもらううえで、公募委員の果たす役割は大きい。その点を自覚していくことが必要だ

## イ グループB「どうすればうまくいく？あなたのまちの市民活動！」

地縁活動も市民活動も、活動内容やその活動に対する思いは共通している。両者がコミュニケーションを図ることが様々な課題を解決していくためのキーワードになる。地域の防災行動計画づくりや出前トークなど、様々な機会を活用して、両者が関わりを持つ工夫をすべきだ。

地縁組織の持っているネットワーク力や人脈は地域の大きな力になる。それを有効に活用することが、市民活動の裾野を広げ、地域住民がより良く暮らすことにつながるのではないか。

地域によってはまちづくり活動に変化が見られるところもあって、地縁活動と市民活動を区別せず、同じ志を持つ仲間として協力をしている地域もあるようだ。活動への参加が比較的容易なまちづくり委員会の活動などがその具体的な例で、それらの活動は今後のまちづくりを考えていくうえで、大きなヒントになるのではないか。

行政は地縁活動と市民活動をつなぐためのきっかけづくりや活動団体に対して信用を供与するなど、「スーパーバイザー」としての役割を担うべきではないか。

## 2 市政参加・情報提供部会

### (1) これまでの取組状況

回数	開催月日	場 所	主 な 内 容 等
第1回	6月24日	ひと・まち交流館 京都	・市民参加推進に関するアンケートの内容について ・部会の進め方について
第2回	7月29日	ひと・まち交流館 京都	・市民参加推進に関するアンケート調査結果の検討について
第3回	8月22日	ひと・まち交流館 京都	・審議会等委員の公募について
第4回	9月27日	職員会館かもがわ	・これまでの部会活動について ・京都市の市政参加・情報提供の取組状況について

### (2) 主な内容

#### ア 市民公募委員アンケート結果に基づく課題抽出

市民公募委員にも、それぞれの長年培ってきた知識や経験を持っている人がいるのに「市民公募委員」という位置付けでくくられてしまう。募集する際には、市民公募委員の審議会における位置付けや役割をはっきりする必要がある。

市民公募委員の中でも知識や専門性に差がある。市民公募委員自身の努力も必要だが、市民公募委員へのフォローが大切である。

市民公募委員の人数を増やすことと市民公募委員の参画している審議会を増やすこととは並行して考えるべきである。

市で設置されている審議会等の情報が網羅的に把握できる仕組みが必要である。

#### イ 課題解決のための基本的方向性

公募委員に参画してもらう審議会は、従来の審議会の議論の進め方や運営方法を改めて、公募委員の参画しやすい環境を整え、審議会そのものが変わる努力をする必要がある。

市民公募委員を募集・選考するに当たっては、市民公募委員に対してどのような役割を求めるのかを審議会等の委員が意思統一した上で行うよう、審議会等の所管課に働きかける。

市民公募委員が審議の場で気軽に発言し、議論できる環境を整えるために、審議に必要な基礎情報や学習機会の提供などを行うよう、審議会等の所管課に働きかける。

市民公募委員制度を活性化するために、市民公募委員が審議会等の枠を超えて横断的に集まり、市政に関する情報交換やスキルの向上などを図ることのできる場を創出する。

審議会等の開催日時、審議内容、市民公募委員の募集などの情報が一括して閲覧できる仕組みを整える。

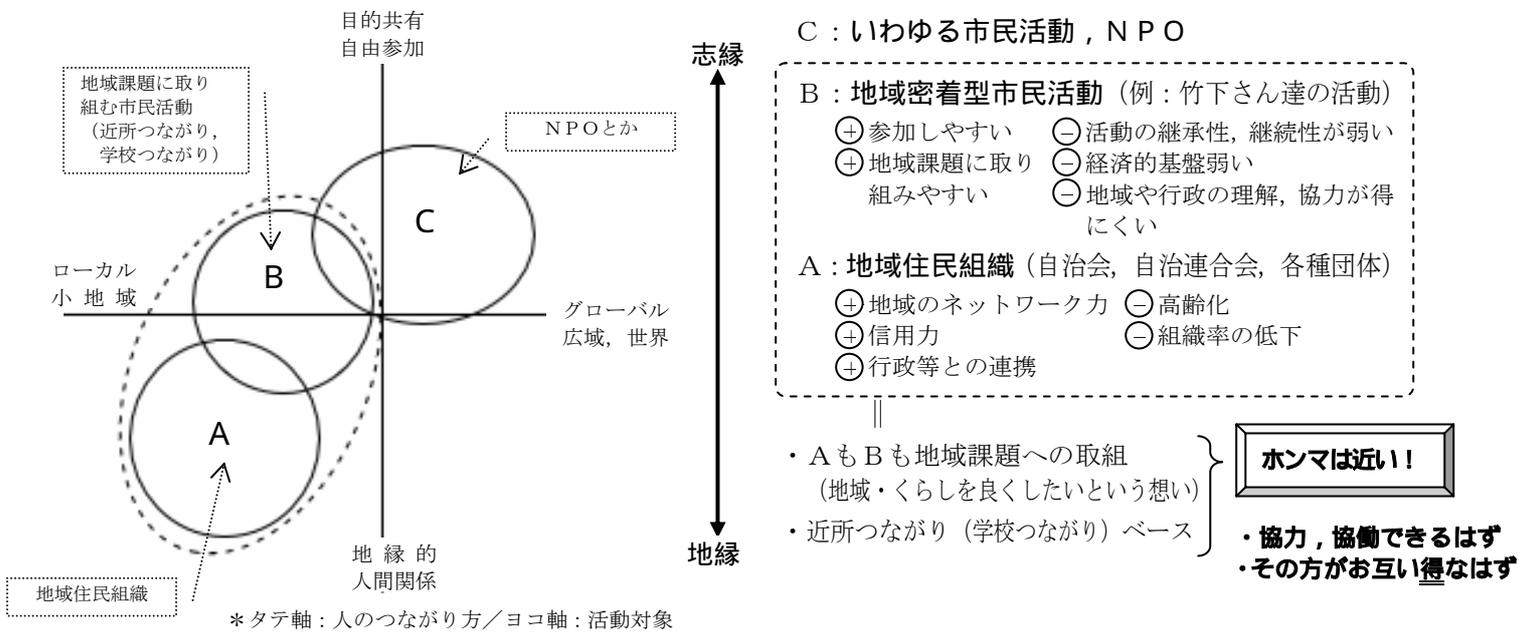
### 3 市民活動部会

#### (1) これまでの取組状況

回数	開催月日	場 所	主 な 内 容 等
第1回	6月24日	ひと・まち交流館 京都	・部会活動の進め方について
第2回	7月15日	景観・まちづくり センター	・景観・まちづくりセンターへのヒアリング
第3回	8月 9日	寺町第1会議室	・市民参加円卓会議の実施結果について ・地域活動への関わり方について
第4回	8月26日	本能自治会館	・本能まちづくり委員会の取組について
第5回	9月28日	こどもみらい館	・これまでの部会活動について ・京都市の市民活動の取組について

#### (2) これまでの議論のまとめ

##### ●市民活動と地域活動はなんで協力できにくい?!



**地域住民**

地域と住民の関わり方

悟っている(?)人 **A**

- ・地域のルールなので動いている人
- ・地域のルールを理解して活用している人 (例：西嶋さん)

何とかしようと

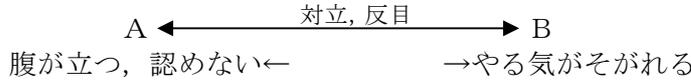
もがいている人 (例：竹下さん) **B**

- ・地域のルール, 仕組みがわからない
- ・地域のルール, 仕組みに反発する

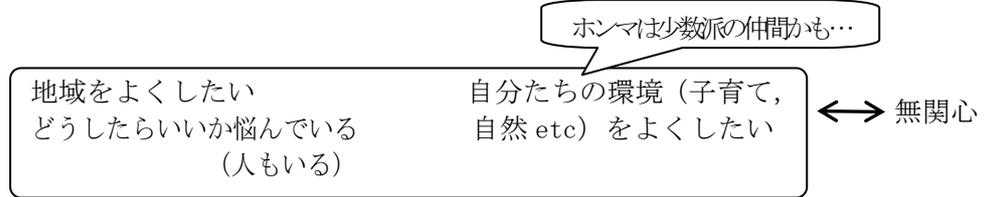
関わっていない人

- ・関係あらへんね～

<よくあるパターンは>



<でもホンマは近い>



<ウリは>

がんばっている人も多い  
地域への愛着

新住民の中に人材多い  
・リタイア組  
・子育てグループ後展開組

潜在的ニーズはある

<課題は>

どう変わるか (個人, 組織)

どうフォローできるか

どうやって引き込むか,  
知らせるか, 気づくか

**なぜ協力できないの？**

<一寸違うところは>

- ・汗を流すところから入る
- ・良識 (地域ルール)

- ・理屈から入る
- ・正論

<地域とは…>

地域に顔を知ってもらう  
には10年かかるもんや

壁たかい！ぶつかる

ぶつかったものは

<ホンマかナァ>

- ・これに耐えられる人少ない
- ・若い人はつきあえない

- ・壁には高いところも低いところもある。壁やなくてたった一人の路傍の石かも。
- ・ぶつかるのはBの人だけやない。Aの人もよくぶつかる……悩みは共有できる

<新しい動き>

今変わりつつある

例：まちづくり委員会型組織 (本能, 梅津) = 自由参加, 年功順列なし = 地縁組織内志縁組織

市民活動型地縁組織

**今, 何が必要か…**

①ヒントはAとBは近い, と誰かが伝えてあげる。相方をつなぐ } コーディネーター  
相談できる人

②事例集…こんな地域活動もある。こんな市民活動もある = お互いを勇気づける。手をつなぐヒントになる。

③ノウハウ, コツの伝授 (双方に) = 地域での活動ガイドブック

Aに向けては…「若い人のつぶやき・想い集」 / Bに向けては「地域デビューイロハ集」